

「ごみゼロ社会」は 読解検定長文 小5 夏 2番

「ごみゼロ社会」は企 業が行動を改めさえすれば実 現するかのように受け取られるかもしれませ
ん。しかし、そう単 純ではありません。

私たち一人ひとりはこの社会の中でいろいろな顔をもっており、どの顔もひとりの人間の真の姿
です。政治的な顔は、国民・市民としての立場から主 権者として政治にかかわることです。生産者
としての顔は、職 業・仕事をとおして経 済活動にかかわることです。生活者としての顔は、もの
やサービスを消費しながら、教育・文化や趣味・リクリエーションにかかわり成長していくことで
す。こうしたいろいろな側面が 私たちのなかに重なりあっています。人によって、また年 齢によっ
て、ある部分が大きくなったり小さくなったりしますが、こうした多面的な視点から対象をトータル
に見ていくことが必要です。

暖 房や冷 房がききすぎている乗物やオフィス、歯磨き・洗 顔・調理のときの湯水の流しっぱなし
や、テレビ・電気のつけっぱなし、メーカーからのエコロジーマッセージに気づかず、値段と見栄え
と便利さで商品を選ぶ買い物、公共輸送機関が利用できるのに車を使うこと……。私たちにとって
身につまされることがばかりです。いままであたりまえのこと、よいと思っていたこと、まわりの人も
同じようにしていることを、自分の意見で変えていくわけですから、なぜそうしようとするのかにつ
いての知識が必要ですが、日本人とか〇〇会社の社員としてではなく、地球人としてのセンスが必要
です。

ここで、ケチとぜいたくについて考えてみましょう。ケチとかぜいたくとかいうことは、ものが少
ないとき、ものがあっても買うお金がない時代、逆 にいえば、だれもがものを持ち、お金を使うこと
を渴 望しているときの言葉です。ある人がどんどんものを買ひ、お金を使うのをみてうらやむときに
「ぜいたく」といいます。しかし、地球はいま、もの余り・金余りの人間によって痛めつけられてい
るのです。オイルショックのとき、もの（資源）が枯渇するといわれましたが、そうかんたんには
なくなることがわかってきました。地球にはまだものがいっぱいあります。お金も先進国には十
分あります。とくに日本は余っています。

地球、とくに先進国ではいま、ものが余っています。つまり、ケチとぜいたくという言葉の社会的
基盤がなくなってきました。そういうときに、この言葉のもつ概 念にしばられている人は
時代遅れということになります。いま地球に不足しているのは、ものではなく、ものの入れもの、
資源を使いごみにしたときのごみの捨て場（地球環 境）です。先進国、とくに日本に不足している
のは、お金ではなくて地球を救うための知識とセンスです。

ものをどんどんつくり、使い捨てにする一方で、なんでもお金で解 決しようとする日本人は、自ら

生産者の面生活
者の面も持つ

一人の人間は、社会生活者としての面も持っている

これが環境問題の